

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、事業所独自の理念を作っている。職員一人ひとりが理念を理解するために、職場内に掲示し職員会議などで確認する場面を作り、実践につなげている。	法人の理念をもとに事業所の理念を職員と検討し、設定しています。また、理念を実践できるようユニット内に掲示し、毎日の出勤時や職員会議でも確認する機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭りのお神輿が施設玄関前に来たり、町内会の新年会に参加している。また、地域向けの広報誌を年6回発行し地域で回覧して頂いている。保育園児の慰問や、地元のパン屋さんの訪問販売がある。	広報誌を定期的に発行し、地域に回覧し情報を発信しています。また、地域の祭りの際は屋台神輿に敷地内に入ってもらったり、保育園児や小学生がホームに来てくれたり、事業所の祭りにも地域の方にも参加していただくなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場では、取り組み状況について報告し、グループホームや認知症の人を理解してもらえるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、事業所の取り組み状況などを報告し、貴重な意見も頂きサービス向上に反映できるよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、町内会長、ご利用者代表、ご家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	昨年度までは、運営推進会議に市の担当者から出席して頂いていた。不明な点などは電話で相談や報告をさせて頂き連携を取っている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、不明な点について連絡を取り連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を開き、どのような行為が身体拘束にあたるのか、職員の意識の統一を図っている。徘徊される方にはさりげない見守りを行ったり、行動の把握に努めている。	事業所で身体拘束についての研修を行い周知徹底をしているほか、離設のケースに基づき無断外出マニュアルも作成するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体で、高齢者虐待防止についての研修会を行っている。職員全員が参加し、日々のケアの中で注意を払い、虐待防止に努めている。	身体拘束研修と同じく、事業所にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しているほか、職員の言葉遣いについても気付いた時に指導するなどし、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。現在、成年後見制度を利用されている方はいやっやらないが、理解はできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所の方針やご家族の役割等をお伝えし、ご家族の疑問点に納得して頂ける様な説明を行った上で理解・協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、運営推進会議にも入居者代表が出席し、意見・要望を言う機会を作っている。また、面会時等にお聞きした意見や要望は、職員へ周知しサービスに反映に努めている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所の食事会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のミーティング、個人面談を実施して、職員の意見や悩みを聞く機会を設け、改善に繋げる努力をしている。	年2回は個人面談を行い、個人の要望や悩みを聞いています。人事異動の希望についてもアンケートを実施しているほか、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや意欲を持って働けるように、人事考課制度を活用している。また、希望勤務地や希望職種などアンケート形式で意向確認して職場環境への反映に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や事業所内で各種研修会を計画し、多くの職員が参加できるように努めている。また、外部の研修にも参加する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の4グループホームで管理者会議を定期的開催し、意見交換を実施している。また、4グループホームで検討する機会も作り、サービスの質の向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の生活状況を把握し、本人、家族の希望を聞いている。その際には本人の立場を踏まえ、不安解消に繋がれるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの経緯やご家族の苦勞について、十分に話を聞くように努めている。要望に対して事業所としてどこまで対応できるかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、本人、家族の要望を聞き、可能な限りプランに取り入れ支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者目線を第一にし、暮らしやすい環境づくりに努めている。畑や調理など日常のことを一緒にやり、分からないことは教えてもらいながら、共に生活する関係づくりに努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態や変化を、こまめに家族に報告・相談し、ご本人を尊重した援助ができるよう努めている。また、個別の近況報告や広報誌を送付する等して、情報の共有を図っている。	事業所広報の「おたて通信」をご家族に送付しているほか、年に2回個別の近況報告もお送りする等、日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人からの面会があり、一緒に外出や外食をしたりする方も見られる。また、行きつけの美容院を利用する方もおられ、馴染みの人や場所との関係を維持できるよう援助している。	ご家族の協力も得て自宅へ出かけたり、行きつけの床屋に行かれるご利用者もおられます。また、友人に面会に来て頂いたり、お手紙をやりとりするご利用者もあり、今までの関係継続支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について、職員間で情報交換し、場面場面で配慮した働きかけを心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られる時には、これまでの生活状況、サービスの内容や留意事項等、情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、思いや意向の把握に努めている。言葉で表現できない方については、表情や行動から意向を汲み取るように努力している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、ケアプランの検討に活かされています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中で生活歴や生活環境などを聞きとったり、面会時等家族から以前の暮らしぶりをお聞きし、職員間で情報を共有している。	入居時にご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、居室担当者により状態の変化時には、情報の見直しも行われています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、入居者の身体状況の変化を把握できるよう努めている。1日の過ごし方についても、本人のできる事を把握し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議にて、ケアの現状の確認や方法について話し合っている。また、ケアプラン変更時には、家族・本人の意向確認を行い、現状に即した介護計画を作っている。	モニタリングは担当介護職員が毎月行っており、6か月に1度はサービス担当者会議を実施し、ご家族も交えてケアプランの検討を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアプランの実施状況は、生活記録に記載して職員間で情報の共有を図っている。また、介護計画について月1回モニタリングを行い、見直し時に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合型施設であるので、お互い行き来をして交流深めている。時には身体状況にあった入浴設備を利用することも可能で、幅のある支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、地域包括支援センターの職員や地域の方に参加して頂き、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診してもらっている。緊急時や必要時は受診に付き添い、普段の様子を伝えてたり、主治医宛に経過報告もしている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめ医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	高齢者の体調変化についての研修を実施し、些細な体調の変化を見逃さないよう、早期発見に努めている。何かあれば看護師に相談できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された際には、家族や医療機関に普段の生活状況を提供し、退院前には医療機関に情報確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対象の方が出られた場合、その時の健康状態にあわせ、家族と今後のあり方を相談し、家族や本人の望みが事業所としてどこまで対応可能かどうか、確認しあう場面を設ける事としている。	契約段階で事業所の「看取りに関する指針」をもとに管理者はホームの方針を伝えているほか、ご利用者の状態に合わせご家族と話し合いの場を設けています。事業所でも看取りに関する研修会を実施し、職員の理解も深めています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、高齢者の体調変化と看取りについて勉強会をしたり、消防署の普通救命講習を年1回ずつ実施し、全ての職員が対応できるようにしている。	毎年1回は消防署職員より普通救命講習を受けているほか、事業所でも緊急時の対応について研修を行う等、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間を想定した避難訓練を定期的に行い、職員の防災意識を高めている。津波想定避難訓練を実施したり、地域合同の避難訓練を予定している。	夜間の火災を想定した避難訓練や駆けつけ訓練を定期的に行なっているほか、地域の防災訓練にも参加し、災害時に適切な対応がとれるようにしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内で接遇研修や職業倫理の研修を行い、認知症があっても、人として尊重した言葉かけで対応するよう努めている。	事業所でも接遇研修を行い、言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように徹底されています。また、広報やブログへの写真の掲載についても契約の際に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で表せる方には意向を確認し、意思表示が困難な方には、行動や表情から汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちやその日の体調に併せ、できる事を尊重して、個々の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で服装を選ぶ事ができる方は自分で選んでおられる。できない方に対しても、その方の好みを意識し、その方らしい身だしなみを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みや希望を取り入れながら、メニューを作成し、一緒に調理を行っている。職員も一緒に食卓を囲み、会話しながら食事をしている。	ご利用者にもできる範囲で調理や後片付けも行ってもらっているほか、事業所の畑でも野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。お寿司屋さんの外食に出かけたり、流しそうめんを行ったり、ご利用者と一緒にギョーザ作りやちまき作りも行い、食事を楽しんで頂けるように取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重の増減を確認し、個々の体調に併せ量や形態を調整しながら食事提供をしている。自由にお茶を飲んで頂けるよう、お茶のポットを常備したり、希望の方には夜間の水分補給用として、枕元にお茶を用意させて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて口腔ケアの声かけや見守り、出来ない方には介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に排泄状況を記入し、職員全員が把握・共有している。実際、紙パンツから布パンツになられた方もいらっしゃる。又、時間を見て誘導する事で、日中の失禁回数が減った方もいらっしゃる。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない職員のさり気ない見守りや声かけで、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をもとに、個々の排泄パターンを確認し、水分と野菜の多い食事を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望を確認し、入浴して頂いている。拒否する方にはタイミングを見計らい、不安を取り除く声かけをして誘導するようにしている。入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等も取り入れ、リラックスして頂きながら楽しい入浴を心がけている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。入浴を嫌がるご利用者に対しても、職員間で誘導の時間帯等を検討し、入浴を楽しんでいただけるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを尊重し、朝の起床も無理強いせず、個々の入居者の体調に応じて、休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに保管し、内容を把握できるようにしている。日頃きちんと服薬されているか、症状に変化はないか常に確認し、用法や用量の相談を看護師を通し主治医に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの楽しみごとの把握に努め、張り合いや楽しみに繋げるようにしている。散歩やドライブでの気分転換や、日常の家事仕事も一緒にして教えて頂く場面も作るなど、入居者の張り合いに繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や知人との外出、日々の買い物やドライブなど、入居者の希望をお聞きし、体調にあわせ外出支援している。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、図書館へ一緒に行ったりもしています。また季節に合わせてお花見やあじさい見学、紅葉見学などの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っておられる方も何人かいらっしゃり、希望されれば一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば電話をかけ話して頂き、ご家族からの電話の時にも、本人に取り次いでいる。手紙に関しては年賀状や季節の便り等届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事の席は、極力入居者の希望に応じ配置替えしている。季節感を感じられるような装飾にも心がけて、居心地の良い共有空間作りに努めている。趣味の本やパズル、色鉛筆等をいつでも自由に使えるよう設置している。	リビングは併設する小規模多機能事業所と繋がっており、広々としており開放感があります。和室があり、ソファも置かれておりくつろげる雰囲気となっています。季節に合わせてご利用者が作成した作品も飾られ、季節感も感じられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、冬場はニカ所にこたつを置き、くつろげるスペースがある。また、事務所近くの廊下にも、椅子やソファを設置し、独りになり気分転換を図れる居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の持ち込まれた荷物を、本人の使いやすいように配置している。写真や手芸品などを本人と相談し好きなように飾ったりしている。室温や明るさも本人の希望に合わせて調整している。	居室にはタンスやテレビ、ラジオなど、使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの「出来ること」「わかること」を共有し、それぞれが自立した生活が出来るよう配慮している。入居間もない方には、必要に応じて居室に目印をつけたりしている。		